高知精神保健

発行所　高知市丸の内1丁目2－20
高知県地域福祉部障害保健支援課内
高知県精神保健福祉協会
電 話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
発行人　明神　和弘　　編集人　谷　晃

第274号

高知県精神保健福祉協会会長
就任のご挨拶

会長　數井（かずい）　裕光（ひろあき）

高知大学医学部
神経精神科学教室教授

令和２年５月１日に、明神和弘先生の後任として、高知県精神保健福祉協会会長に就任いたしました。高知県精神保健福祉協会は、昭和31年４月１日に設立され、これまでに、精神障害に関する正しい知識の普及啓発、精神保健、医療、福祉に関わるスタッフへの研修、スポーツ大会･文化交流会などを通した当事者の社会参加促進などの幅広い活動を、高知県の中核となって実践してきた歴史ある組織です。そのまとめ役の責務は重大で、私に出来るかどうか不安もありますが、皆様にご指導、ご支援をいただきながら務めて参りたいと思っております。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は兵庫県神戸市の出身で、平成元年に鳥取大学医学部を卒業し、大阪大学神経科精神科に入局しました。阪大病院神経科精神科で１年間、兵庫医科大学病院救命救急センターで10か月間の臨床研修を受けた後、平成３年に大阪大学大学院医学系研究科（精神医学）に入学しました。大学院修了後、兵庫県の精神科中核単科病院、兵庫県立病院精神科、阪大病院神経科精神科での勤務を経て、平成30年１月１日に高知大学医学部神経精神科学講座に参りました。

高知県に赴任して約２年半が経ちましたが、この間、高知県内の様々な地域に参り、医療、福祉、精神保健、行政に関わる多くの方のお話しをお伺いし、ご要望もいただきました。最も多いご要望は医師派遣でしたので、高知県内で働く精神科医を増やすことを考え、そのための活動をしっかりと行いたいと思っています。精神科医が増えることによって、高知県精神保健福祉協会の様々な活動が促進されると思います。特に若い医師は、組織を活性化させますので、若い医師が様々な協会活動に参画するような仕組みも作りたいと思っております。また医師だけでなく、福祉、精神保健、行政に関わる若者、女性の提案も積極的にとりいれたいと思っております。

明神先生、先輩の諸先生方、幹部、役員、そして会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

目　次

高知県精神保健福祉協会会長 就任のご挨拶 …… 1
第65回高知県精神保健福祉協会総会の報告 …… 2
あり方検討委員会からの報告（概要版） …… 4

第65回高知県精神保健福祉協会総会の報告

令和２年４月27日に高知市三翠園で開催を予定されていた本協会令和２年度総会は、新型コロナウイルス感染症の発生状況を鑑みて、開催をやむを得ず中止し総会の決議は書面をもって取り集めることとなりました。協会会員には議案書をお送りしたところですが、お認めいただいた議案のうち令和２年度の当協会の体制と事業について、以下にお知らせいたします。

議　事

１．令和元年度事業実施報告及び決算報告について（略）

２．令和元年度会計監査報告について（略）

３．役員等改選について（案）

１）会長	數井　裕光	高知大学医学部神経精神科学教室教授
２）副会長	橋詰　　宏	藤戸病院院長
	山﨑　正雄	高知県立精神保健福祉センター所長
３）監査	佐藤　博俊	はりまやばし診療所院長
	濱口　啓之	海辺の杜ホスピタル管理部長
４）事業部委員長		
・広報委員長	谷　　晃	谷病院事務長
・大会実行委員長	中澤　宏之	南国病院院長
・総合福祉委員長	藤戸　良輔	藤戸病院理事長
・研修委員長	山﨑　正雄	高知県精神保健福祉センター所長
・基金管理委員長	明神　和弘	近森病院総合心療センター精神科部長
５）特別委員会		
・あり方検討委員長	岡田　和史	海辺の杜ホスピタル院長
６）理事（新任）	戎　　正司	近森病院総合心療センター長
	福本　光孝	石川記念病院院長
	山岡　正文	高知県地域福祉部障害保健支援課課長

４．令和２年度事業計画（案）及び予算（案）について

１）会議　（略）

２）事業実施計画（案）

⑴広　報　部

「高知　精神保健」の発行

年３回　発行　　274 ～ 276号　　各2,700部

ホームページの管理、SNSの活用

⑵大　会　事　業　部

第60回高知県精神保健福祉大会の開催

令和２年10月28日（水）　13：00 ～ 16：30

高知県民文化ホール（グリーン）

⑶総　合　福　祉　部

令和２年度精神保健福祉卓球大会

令和２年６月18日（火）　高知県民体育館　中止とする

令和２年度第５回バリアフリーフェスティバル（総会後中止を決定）

令和２年10月６日（火）　高知県民体育館

令和２年度第24回文化交流会（総会後中止を決定）

令和２年12月３日（木）　高知県民文化ホール（グリーン）

⑷調　査　研　究　部　　＞　休　　止

⑸研　修　部

講師の派遣

研修会等の企画

⑹基　金　管　理　運　営　部

高知県精神障害者自立サポート基金申請に関する審査

令和２年度貸付先

貸　付　先	金　　額	貸付日付	償　還　日
A	500,000	H28.12.12	R２.11.30
B	740,000	R１.12.10	R２.６.30

⑺特 別 委 員 会

あり方検討委員会

これからの協会のあり方等について

３）令和２年度予算（案）について

（収入の部）　（支出の部）

科　　目	予　算　額	科　　目	予　算　額
１．会　　費	3,596,902	１．会 議 費	189,000
２．寄 付 金	450,000	２．事務局費	3,097,800
３．雑 収 入	167,384	３．事 業 費	1,309,000
４．県補助金	162,000	⑴広報部費	327,000
５．市町村補助金	122,250	⑵大会事業部費	642,000
６．繰 越 金	147,264	⑶総合福祉部費	249,000
		⑷調査研究部費	0
		⑸研修部費	70,000
		⑹基金管理運営部費	21,000
		４．退職引当金	0
		５．予 備 費	50,000
合　　計	4,645,800		4,645,800

（参考）令和元年度決算概要

（収入の部）　（支出の部）

科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
１．会　　費	3,603,578	１．会 議 費	182,968
２．寄 付 金	454,892	２．事務局費	3,062,659
３．雑 収 入	217,199	３．事 業 費	1,400,177
４．県補助金	162,000	⑴広報部費	310,193
５．市町村補助金	122,250	⑵大会事業部費	651,046
６．繰 越 金	233,149	⑶総合福祉部費	322,188
		⑷調査研究部費	70,000
		⑸研修部費	34,750
		⑹基金管理運営部費	12,000
		４．退職引当金	0
		５．次年度繰越金	147,264
合　　計	4,793,068		4,793,068

あり方検討委員会からの報告（概要版）

委員長　岡田　和史

今次の特別委員会「あり方検討委員会」は平成28年９月から令和元年11月まで、主として協会内外の「ひとの在り様」について検討を重ねた。令和元年９月には当協会理事と、高知県精神保健福祉関係機関連絡会参加団体の「協会の内外」に対してアンケート調査を行い、協会の現状の分析とあるべき将来像について探った。令和２年総会に提出した報告の概要は以下の通りです。

A. 現状の分析：当協会を取り巻く環境の変化とその影響

１）精神保健福祉領域の多様化

精神科病院での入院医療中心から、外来医療の増加、アウトリーチ、総合支援法に規定される福祉施設、障害者就労支援施設、さらには教育現場へと実践の場が広がり、医師や看護師だけでなくさまざまなコメディカルの職種も関与するようになった。対象となる疾患も統合失調症から感情疾患、認知症、発達障害へと広がり、そのさまざまな障害を持つ当事者や家族が主体的に地域活動を行うようにもなってきた。

２）社会的・経済的・文化的な環境の変化

急速に進む少子高齢化により18歳人口は半減し、統合失調症の発症も半減。認知症は激増したものの、将来的には減少に向かうことが統計上確実になっている。人口が減り産業構造が変化し、そのことがうつや引きこもり、児童虐待の増加などに影響を与えている。

３）当協会の変化

高知県精神保健福祉協会の財政基盤である特別会費を納める精神科病院の病床数が減少し、予算規模も年々縮小しているうえに、１）でみた領域の多様化と拡大の中で当協会の存在感は相対的に低下し、過去の様に多方面に展開することは困難になりつつある。

B. 今後の目指すべきあり方

１）組織のあり方

関与する領域が多様化し拡大しているなら、これまでの枠にとらわれず、協会の外部、まず精神保健福祉関係機関連絡会に参加する団体の会員への働きかけや、主体的に活動できる当事者・家族・支援者のグループ、さらに福祉領域だけでなく教育領域にも参加・協働を働きかける。

２）活動の方向性

直面する課題の他に、予想される南海トラフ地震へも備えなくてはならず、活動のテーマを一定期間重点項目、たとえば「災害へのそなえ」「子どもの育ちを支える」「依存症」「認知症」など順次絞り込んで協会全体で活動するというスタイルも考えられる。今まで通りのやり方では協会が委縮・縮小していくというのが、あり方委員会メンバーの共通認識となった。

命のために、
できること
すべてを。
大日本住友製薬
Innovation today, healthier tomorrows